

平成二十五年七月十五日

テレビ放送に迷子特集あり。遊園地にて迷ふ子の人目はばからず泣く顔、迎への親と再會し喜ぶ様をクロージアップして映す。

父母を呼びて。パニック泣きするあり、氣丈にも不安に耐ふる表情見せれども、目に涙一杯の子あり、係員に住所問はるるも心ここにあらず「日本！」とのみ答ふる子、また存外に冷靜にして住所氏名年齢、果ては親の名前年齢まで滑らかに言ひ得るあり。行兒にして何故に迷子になりたるかと思はず。

迷子預り所に引取に來る親にも諸態様あり。心配に顔ひきつらせ「もしや此處に」と預り所覗き、吾子見つけて安堵する母の顔は麗し。再會を果たし親子共に抱合ひて泣くはドラマ一場面の如し。場内擴聲器の放送により、わが子預り所にあるを既に知りて來る親は表情にやや餘裕あり。預かり所に居ればしかるべき大人の下、危険無かるべしと安心し、一休みの後に引取りに來る親もありといふ。

子は親が顔見し途端、大泣きし全力にてしがみつが普通。照れ隠しに口を尖らせ、横を見るは年長の子なり。

我が娘、順子四歳の頃、百貨店にて我より離れて歩き、やがて姿見當らずなりぬることあり。必死に探し回るうち、「ピンクのカーデガン、チェックのスカートの女の子」の店内迷子放送ありて安堵、引取に向ふ道すがら「勝手に親より離れて歩き回る、これ迷子になりし所以。以後、親の手を離すべからず」との叱責を豫定す。

然るに迷子預り所にて、娘、我を見つくるや泣き出すは豫想内なれども、大聲にて吐出したる言葉、私の意表をつきたり。曰く「父御、これまでいづくにありや。かくなりしは父御おとうさんが自分より離れし故。以後、自分より離るべからず」

何事にも自分勝手なりしこの娘、迷子になりし因は自分にあらずして父にありと信ず。よもや係員に、親が迷子になりぬと訴へたるにあるまじき。

順子の自分勝手、成人の今も變はらず。